修業勝乳

特別
イ4
696
16

696
16

○稲月小四郎〈蒲月八日〉

○妻〈遠藤氏正月廿七日〉

年〈花月廿八日〉

○蒲月八日〈桂月八月廿八日〉

〈瑞月十日〉

〈五月宝典〉

〈三位三郎〉

○簡分の義〈裏宿直の者〉

花園宰相〈直の者〉

後陽成院宸翰〈宝船〉

帝の宸翰の〈絵〉

〈宝船の西笑〉

〈真実義書〉

正月宝舟の絵

〈古代の書〉

〈宝舟の絵〉

〈正月枕〉

〈数事〉

〈見せし京都〉

〈将軍〉

〈貴書〉

〈自孝〉

〈簡分〉

〈御調〉

〈一両年〉

〈上京〉

〈小川〉

〈左近〉

〈申に〉

〈御船〉

〈光源院〉

〈其福山〉

〈公方様〉

〈二条〉

〈自孝〉

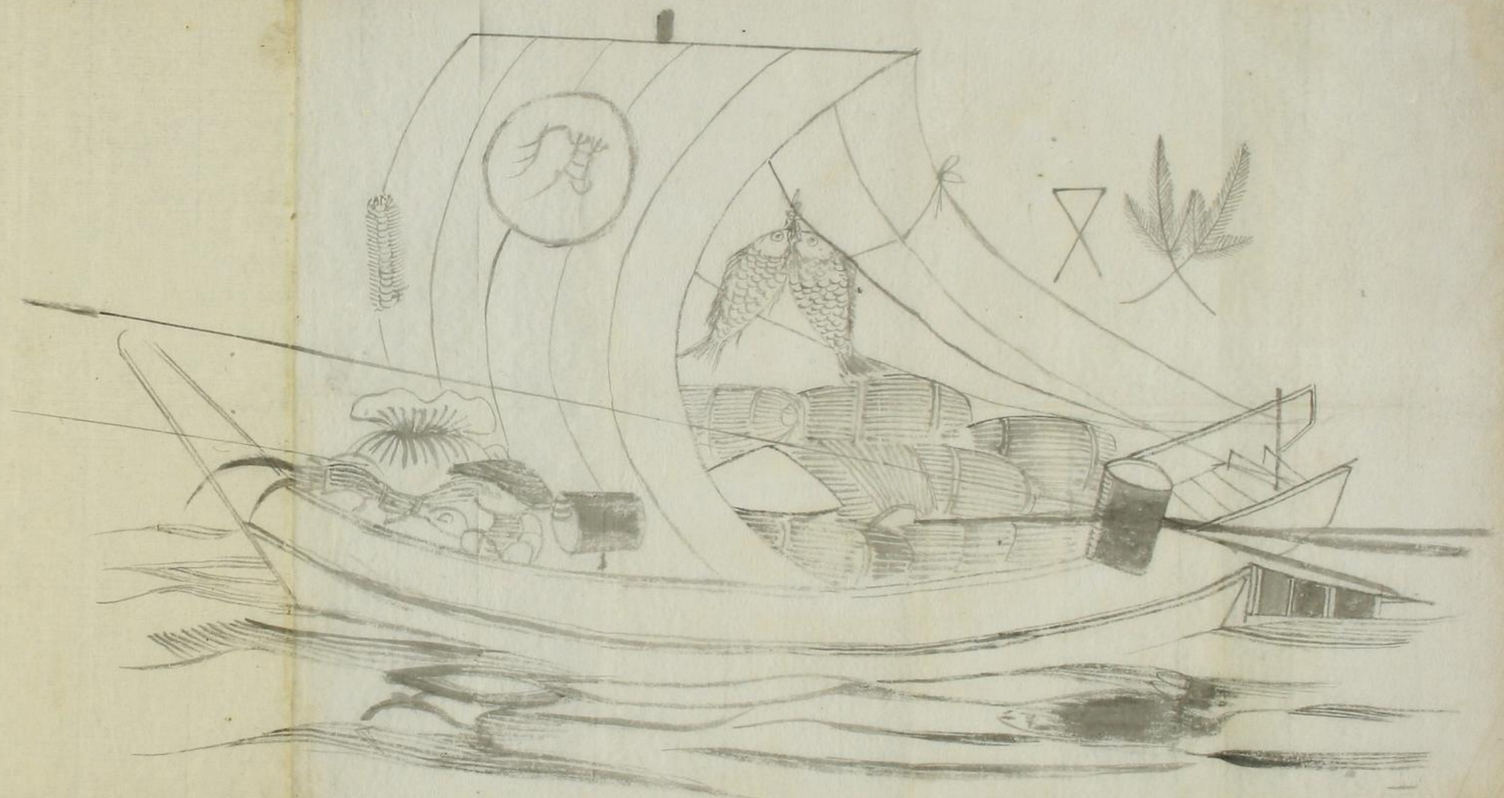
〈申に〉

〈公方様〉

〈小川〉

〈御船〉

〈杉原〉



横三尺八寸五分

拾葉筆記。節分の夜なり丹葉若狭の者小絵かき宝船の画ハ花園舞久射臣横ぶハ後陽成院表紙ハ絵書文字美宸筆なり此帝の宸筆ハ神代巻職原抄孝経なりしも宝船の板木ハ百沼の火災の焼すりと京都にあり有ものとなり絵ハ人物ハ板木

家乗 勝信卿筆

宝船図書 美花園中納言公之中ハ字 後陽成院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

一

一

一

一

一

雜說囊詔 [illegible] 元年林自見申[illegible]脛[illegible]板行 録 巻之下末 三

節分の炒豆旅途可携之 妖性障礙拂 ト云雖似兒

女說 古法也 トアリ

傳囊秘文海 安永四年 板行

旅の豆將節分の豆年の数食べ

行屋〜道中恵方〜歩行行目中〜物相〜

元相雑録

御家

御祝儀

松五　栗

梅干

豆

昆布

明和八

いろは寄私言葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和漢三才圖會

林氏曰儺雖逆於戴而右之禮也故聖人猶朝服而立於阼階記固禮及漢志唐代之史李朝補世雖有駈鬼之故事然文武帝時始行之以降每歲以季恒今民間除夕搢杠谷樹於門戶醉則其葉有核角如刺蓋禦邪鬼也亦爆豆撒之屋內唱曰鬼外福外內

梅山寺宝積寺縁起曰文武天皇慶雲三年丙午天下大疫醫藥呪術不得治治之震禜石安行基菩薩答曰用儺禮者皆除之則如言而得國泰安民行基自作男女二鬼面今傳有之是本朝儺之始也蓋彼寺所修儺異于他用圓餅如鏡者七十五名以只行搢之搢車輪掛壇鴨居同掛鬼形向之鏡所照之鬼僵自怖遠逃之貌也彼餅名勝餅又俗呼餅曰家鏡亦此因緣也

法道仙人閑基寺多右馬介皆修追儺法見加東部朝光寺儺寺僧蒙鬼面被彩服塡炬斧鉞鍬杖等別被造唐人如追彼鬼魅逃去山洲菩薩沙之東北隅有塚名麁蔑塚若疫鬼隨伏

[illegible]

禮月令に云季冬命有司大難旁磔（難音那 磔音責）出土牛以送寒氣

征鳥厲疾乃畢山川之祀及帝之大臣天之神祇

（註云季春惟國家之難仲秋惟天子之難北則下及庶人又四方之門皆磔牲皆所以禳除氣也能制水故作土牛有象能制水故以土牛象之）

本邦風俗用容易以鞭頭代土牛以猫兒刺代征鳥者

乎其賢乎

○年中行事記

大晦日　今年の年經は六月に盧人工の年經は

又晦日　又晦日の書は

[illegible]

大晦日の年の[illegible]

○骨正月　元日　新年の歌は必ず神を祭る事なり

[illegible]

○火水始　日要鈔

世俗番に云ひあたりしかとも

[illegible]

元朝家の門に水火を改め新たに火を焚く

[illegible]

七月十七日人の初めの如し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白公家ノ御膳飯者強飯也乾柄家等如此姫飯全ク
公家儀也但人々依好悪用之強飯飯湯也而
延喜式姫飯之時ハ理也為章之
和名鈔編糠 [illegible] 編糠ハ白米ノ糠也
和名之留加由薄糠也
書 [illegible]
諸説 [illegible]
[illegible] ハ編糠ノ名ナリ

七夕ハ七月ノ八日ノ夕ノ名 鶏志

備忘録 [illegible]

或説 [illegible]

住吉秘傳抄 [illegible]

墓 [illegible]

[illegible]

ソハラゴ

貞丈雑記 海鼠ノ中ニメルナリ漢土書ニハ海参ト云
功能有テ海参ノ二メトヘテ海参ト云日本ニテハ
昔ヨリ海鼠ノ字ヲ用ヒ来レリ和名抄ニ崔禹錫食
経ニ云海鼠似蛭而大ナル者也ソハラゴ本名ナリ
九ツ、ニテ干メルヲ熬海鼠ト云海鼠ノ美ハ縮リテ短
丈ヲ乾メル故熬海鼠ト云其形ハ丸ク細長ク
米俵ノ形ノ如クナル故ソハラゴトハ名付
古書ニアリ米俵ノ人ノ食ヲ納ルモノニテ
正月ノ祝物ニ用ル
串ニ
刺シ掛ル如クニ乾ニメルナリ
後代熬海鼠見及バズ生海鼠ニ十二月ヲ生海鼠
ト云ヒ用ルナリ今世間ニ
イリコトモソハラゴ
出ル
其形米俵ニ似タリ是ハ
海鼠ノ乾メルモノ
熬海鼠ト云故
然シカルニ石ヲ金海鼠ト云
ソハラゴ
生ナル時コリ如此ノ形ナリ

ト思フカ如ク海嵐ノ如ク形長ケレ共 敷海風
二割ノ如ク故形長ノ如ケレ

榧 玉榧 玉山果 [図図図図：極熟火可遊蛇 蛇ノ恵其香之蝮蛇喜其香蔡末]
本細榧ノ生深山中人呼為野杉
榧實 滿年 常食治五痔療寸白蟲小兒黄瘦有蟲積
者宜食之以猪膏炒榧黑皮自脱榧子同茸蔬食其渣
自軟 榧子皮及葉 豆能殺人也
秦椒 除風邪溫中堅齒髮明眼久服好顏色耐老
弓弦葉

塩尾 若古倉ノ市井ノ兒輩等 正月五日ノ夕方ノ大ノ
竹ヲ小ク切ル ノ如ク作リ 長ケ門ノ五ツ
ノ遺ノ意ノ如ク作リ 尼義長ノ遺ノ意ノ如ク作リ
同書ニ 歳首ノ書ノ意ノ如ク作リ 射ノ入ノ射家者流破書
書西意ノ意ノ如ク作リ 十二張ノ弓ノ二節ノ如ク
ノ意ノ如ク作リ 射ノ入ノ射家者流破書
意ノ如ク作リ 射ノ入ノ射家者流破書
ノ意ノ如ク作リ 射ノ入ノ射家者流破書
ノ意ノ如ク作リ 射ノ入ノ射家者流破書
ノ

[illegible]

故實拾要抄

是禁中並堂上諸家中も正月門ニ[illegible]ナリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其訓繩墨直之義神道以直為本左者陽德
取清明之義弱而不整雪其剛
強之芸弱也是質朴而不飾之意故以直
潛質為神明之德一條縄而具此三德也即
注連是也

道祖神用白散白米粉粳各分等分年中行事秘抄云
注二月晦日夜屠蘇白散の方弘仁年中所出
屠蘇白散の方
小女の未嫁ととのえ先屠蘇を飲ましむ
桔梗一分
附子一分
椒二分
右四味為末以酒服方寸匕
日一服
薬酒
白散
桔梗
白朮
椒
右三味為散酒服方寸匕
元日の朝薬酒を飲む
延喜式に元日の散一剤
有薬則一里に出す
御薬歳具以温湯服五分一家
皆宜

元旦人日及立秋日赤小豆二七枚搗呑之辟穢瘟疫

元旦同十五日新水提二十枚投井中辟瘟疫甚効

三文圓金

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○雑煮餅

[志草]

[料理物語]

[寛永二十年]

羽別米澤の雑煮餅

串海鼠　こんぶ

焼豆腐　昆布

大根

鹽引鮭

干蕨

中略

大根

芋

人参　芋　蕪

牛蒡　大根　せり　菜

蕪

和漢三才圖會

本綱云栗腎之果補腎之物五果屬水水潦之年則栗不熟類相應也以代食盛生栗懸乾之四五十餘顆可收蓋風乾之栗勝於日曝而火煨油炒勝於煮蒸頓食至飽又致傷脾

搗栗造法用乾栗連殼晒乾稍舂搗臼去殼及莢皮則淨黄白色堅味甜美或浸熱湯及煨灰待軟食亦佳或食時用二顆坐於掌稍溫則栗殼乾栗之珍物也以爲嘉祝之果蓋取勝栗利之義武家將軍之

○天成執日

南蛮書言之世俗正月六月十二月を
三二一四五六と繰り七月より十二月
なり

四月十八日　寅の時子の時と
ゆ　八日　十五日　卯の時子の時
ゆ　十二日　十五日

又似我拝物　天稼拝偶
四夜八朝十夜　五日日夜十夜　昔夜世九日夜世
小西原記対　寺務ヶ松　入乃月　六月十五夜
接口を入れ　西の晩　体の後
生年新　二月　松田左馬　弾二郎　夜左馬
肥後を振舞　虎法を新　紫雲を語る神　左馬
法華　先年如　と
山伯　一　寺ぶ十五日
可　天正十八年の事

[illegible]

大雜書[illegible]

[illegible]

拾葉抄[illegible]記

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月　驚　悪
三月　心善
四月　危悪
五月　勝善
六月　絶悪
八月
九月
十月
十二月

○御謠初
家光公大鞨院殿
武年正月二日の山初爰上下の山蔵
為ゝ也ゝ
山覧ゝ於ゝ巻ゝ御義ゝ
山常員ゝ
山例ゝ
折節謡ゝ
左近山謡ゝ
ゝ
ゝ

三寿
五寿
右一
二寿
五寿

四寿　松平外記
四寿　書年五寿

寛明日記

御論、初日是　二日　宝樹院殿御忌日如此之

御系譜　嚴有ヲ御實母敬業方　増山弾正少弼正利妹

兼應元年己辰十二月二日御産生ル　二月二日今夜

宝樹院殿華城天業大姉

○七日入　日之出　東方朔が古書ニ正月一日ハ鶏日二日ハ狗日三日猪日四日羊日五日牛日六日馬日七日人日之所ハ生物ヲ殺ス其日晴ハ其人ハ万物の霊ニ有リ　加ゆゑ　又霊長ゆゑ　五節供の

今日七草の菜粥ヲ喰ハ

七種菜

せり　なづな　ごぎょう　はこべら　ほとけの座　すずな　すずしろ

本草ニ鼠麹草ハ今ノ俗ニ云ヒ　ごぎょう　ハ　又佛耳草ト云ヒ　ほとけの座　ハ　黄蒿ト云ヒ　すずな　ハ　蔓菁ト云ヒ　すずしろ　ハ　水葉ト云ヒ　世の人多クハ此ヲ用ヒ　本草綱目農政全書等ニ老人ニ宜シ

若菜ヲ七種ニ寄ル　又　宮廷ニ　七種

寿十二年　正月七日ニ　正月上の子の日

芹摘　歳時記　正月七日　七種の菜ヲ摘ム　初ル　名ヲ延

日本歳時記

文和元年　後代姉小路　正月小六日　堀川神人　七種菜

人行　行　持参。ナツナ。

芹。大根。アラメ。各方ヨリ　折敷ニ盛ル　此外　監味各

器在之　花園執行日記アリ　是モ又　一種の七種ニ　古事記傳

野乃舎随筆　春七種　拾木抄ニ正月七日　俗ニ七種菜　作養

食之又入　無萬病　刑楚歳　公事根源ニ　七種粥　菜　たべる

芹 蕾 御形 [illegible] 佛座 [illegible] 九條右丞相日記に白穀大豆
小豆 栗 [illegible] 延喜式 十二種若菜 藜 苣 芹
藾 蓼 蔓菁 [illegible] 水葵 海藻 苔 [illegible] 塩農抄に芹多
[illegible] 佛座 [illegible] 耳 [illegible] 坂御願抄に芹
[illegible]

[illegible] 七種 木村綱文 小栗 右京傳受[illegible]
○御形 ハコベ草 ○蕾菁 ○蕪 大根 ○芹
○菁 [illegible] ○佛座 [illegible] 草
○鶏冠菜

十二種 [illegible] 元七種 [illegible] 五[illegible] 今七[illegible]
[illegible] 鶏冠菜 [illegible] 今[illegible]

[illegible]軒小録 七草 若菜の巻の内 光孔
[illegible] 故曰七種 [illegible] 詩 [illegible] 草紙 [illegible]
[illegible] 新 [illegible] 沙七[illegible]
[illegible]

タウトノトコロニ日本ノ富ヲ[illegible]ウツル年ノヨワリニ[illegible]
カナ日本第一ノ家ニ[illegible]
時ニ[illegible]

[illegible]園執日記

正月小
六日 [illegible] 神人役七種菜 沙汰人 行 [illegible] 法師 [illegible]
ナツナ クヽタチ 芹房 ヒジキ 芹
大根 アラメ
此外塩曽各一 [illegible]

[illegible]草圖會
蘇 茅 [illegible]
利肝 和中 根葉焼灰 治赤白痢極效 治腰痛明目
去醫膜 根 莖葉 洗浴 [illegible] 細末毎夜 服 將先洗服 挑末
[illegible] 安 丙大皆須 澁痛 [illegible] 久久膜自落也
黄鶏菜
正月七日七種粥 所用菜是亦其一也今多若種用 [illegible]

能勢郡田野中に多有之
式人の説に七草詣は此の三度の稽
書籍の部の数の説の日本の武の数の説の日本の武
○神宮軌範日記云十四日
鏡宮為入湯以来又用歟
延文年後代始也正月
小六月小六月
神役七種菜
行化師梅
谷一ツ土器在之
ナツナ
折敷
谷方五寸
ヒジキ
ヒヒキ
紫外
鹽増

○十日
廿日
廿日
廿日
廿日
廿日

○御膳之図

紙包
長寿斗上
大根 縮方
蔵柑子
根付
串柿
海老髭
後世
其節紙包
榧
搗栗
九ウスキ餅
重ネ
青白ノ引ムスビツイラ
下迫ヲケル
丸ナ餅
長寿斗
白
赤
メメ
蓬
白
楪葉
大成板
方

村上彦左衛門の義家の後世の八幡殿と河内守義家の後世と名乗り給ふ事

又ある人の曰はく八幡殿の後世と名乗り給ふ事

神よ家の[illegible]

あるべきこと

[illegible]

日本歳時記

嗚呼矣草

正月十[illegible]

[illegible]

[illegible]

○御月宴小說

治礼記ニ正月十七日天禄三年ノ君仕ノ下女夢想ニ

見ヘシ

信ニ云ク前ニ今年

[illegible]

或記ニ
小豆飯者ノ
アツキヲモテ
悪気ヲ清故
古来ヨリ セウヅト
説ニ

○十五日今朝小豆粥ヲ者ヲ食ス法ノ
初ノ者ノ者ノ者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○十六日 [illegible]

[illegible]

○又京都[illegible]

[illegible]

[illegible]

御諸歳時記、蔵人、十六日六條

又大和、六の條、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和漢三才圖會。

正月十六日唐[illegible]之[illegible]又以[illegible]以此日[illegible]間暇免還人毎家自在遊戯或詣寺院[illegible]年七月十六日亦然也蓋此以千蘭盆出[illegible]終為[illegible]春秋二度矣船[illegible]藪入[illegible]藪[illegible]繼如孤獨者無[illegible]敢依家[illegible]藪入[illegible]以[illegible]遊[illegible]隨意

[illegible]

○社日 [暦便覧]に塔婆の[illegible]春の二月秋八月の中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年の

雜祭

[illegible]

此神高皇産霊尊の[illegible]

[illegible]

[illegible]

入梅出梅之諸説

一書便覽より入梅は五月の節の後の[illegible]の日を[illegible]

多くは[illegible]唐家[illegible]

此時節[illegible]

衣[illegible]入梅[illegible]

三十日[illegible]入梅の節

四時纂要

滿入曰 芒種の後[illegible]

儀曰 又栗花落[illegible]

浪華の[illegible]

入梅[illegible] 芒種の後の十五

神[illegible]曰 丙[illegible]入梅[illegible]小暑の後未[illegible]出梅[illegible]

辟金錄曰 芒種の後[illegible]入梅[illegible]夏至の後

李[illegible]

[illegible]説は芒種の後[illegible]入梅[illegible]小暑の後

元三帰正 芒種の後丙の日[illegible]入梅[illegible]

説[illegible]

[illegible]雨落衣[illegible]入梅[illegible]云

[illegible]

市井雜談集

[illegible]

入梅 徴雨 是ハ芒種の後壬を経て入小暑の後壬を経て入

世に梅と称し入梅ハ因[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月十日又京都の後後メグリを食事を過ぎ海を
[illegible]
杉原の[illegible]を小刀[illegible]削り[illegible]
つまこの[illegible]受[illegible]
[illegible]
[illegible]

○嘉定

南北傳志　白石著

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作世諺問答謂本説無稽也賞玩嘉定錢云嘉定錢者宗
寧元年朝士所持又云嘉定通寶十二字裡面有一二字
字以至十六嘉定元年當本朝土御門帝建久二年此説
無所由矣 依鴨長明四季物語謂仁明帝承和以後
待宣旨始改元於賀茂社 消古文於六月十六日而被改元
嘉祥則後白河帝始也是千將王賀茂道雄日記由此思之
嘉祥之説良有以矣今按嘉祥本邦俗音相近
故濫之歟

七月七日 煙霞綺叢

二星ハ秋花蕃盛ヲ主ル由之ナリ

詩書に初秋ヲ

種物撰ハ子ヲ生ル者ナリ

ナリ

撰ハ上古の衣服なり

上古の一湯なるが

上古の衣

ハ

上古の衣

又昔祖机と云ふ

古き云葉

上古の衣

又殷王三の山家紙の

紙

上古の衣

嘉

嘉

嘉

嘉

撰

撰

撰

[illegible]

隣女賠言

七夕の七遊ハ詩歌琴碁書画潮と共に宋[illegible]

七日ハ七百首の詩七百首の歌七百首の[illegible]

七献の御酒[illegible]例の

又親長卿日記云文明

十二年七月七日今日有七種事

[illegible]和漢[illegible]和歌[illegible]七日[illegible]

宣胤卿記[illegible]七種法[illegible]

勅花酒素麺等也又例年[illegible]

傍書歌云

白河藻記

齊問七夕[illegible]織女二星渡天河[illegible]為是[illegible]

答曰和漢所[illegible]

武丁之安[illegible]成博[illegible]

[illegible]可也文[illegible]

汚濊不[illegible]可怪[illegible]

[illegible]

七月七日[illegible]

[illegible]二星八[illegible]

[illegible]

[illegible]

○八翔と將恬の第下[illegible]僧義堂の空華日工記に
[illegible]八月十五日夜と桂閣[illegible]九月十三夜と紹記[illegible]
[illegible]人[illegible]生真俗文談記[illegible]

安齋叢書[illegible]尾花[illegible]
[illegible]尾花[illegible]

南北後志[illegible]八翔[illegible]
[illegible]

常語考[illegible]
[illegible]

一時蓮集[illegible]
[illegible]

○九月十三日夜 [illegible]

元年九月十三夜今宵雲浮月明也是寛平法皇[illegible]明

無沙汰被仰出之仍我朝此九月十三夜等明月

夜之

○萩廻下露 華人霜月と[illegible]

十月 神嘗祭也 神祇令下文曰冬十月癸巳朔天皇
嘗其穀[illegible]氣之稼 天武紀曰十月祭[illegible]帝[illegible]弟 發相
新嘗[illegible]訪 神祇 神祇令云春秋神祭 祭仲冬上
卯相嘗祭下卯大嘗祭 此不言十月
南北傳志、[illegible]
[illegible]の[illegible]例[illegible]

川嘗[illegible]
[illegible]十月[illegible]神[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]
十月[illegible]上[illegible]
[illegible]
[illegible]

和漢三才圖會 以十月祈無神月者 坤卦無陽之詔
也 相傳曰北神 北[illegible]
出雲 大社 今有九月[illegible]神 故諸神十月[illegible]列于
但 [illegible]神 [illegible]十月[illegible]神[illegible]之祭
或書[illegible]無仁天皇之朝三輪大神告曰大田田根子命[illegible]

月上巳交月端午天照太神幸魂若宮福智恵尊
行天地嘉祥件日昇行天富
以五色餅菓五色帯及酒菓子誠精進之国祭皆
消国福者發
辨才天経祭序賀神用己巳日交日交月交日時
重以辨供養之恐
恐者備御屠者式取護国貪轉
圓満之義養之始矣
所令翌耳
百河説話太平御覽引五行記曰十月交日食餅令
人無二病
公事報元日式三嚴重餅俗云チヨト
御裁重
根元又曰朝飼

○六月十五日乙巳辰刻髮膏稿着元服髮結等
為国家之祈祭
神武天皇祭祈年祭
寿祈の祭
梅
月
則鏡八十五日也
百王の大祖鎮座
天武姫君様
五歳の御
家元
髮
盥上
野外の
御髮
自之
穢着
唱
瀧洋鏡
高倉院
八百年
幸魂
奇魂
御髮長
中男
御髮
寒

天の道

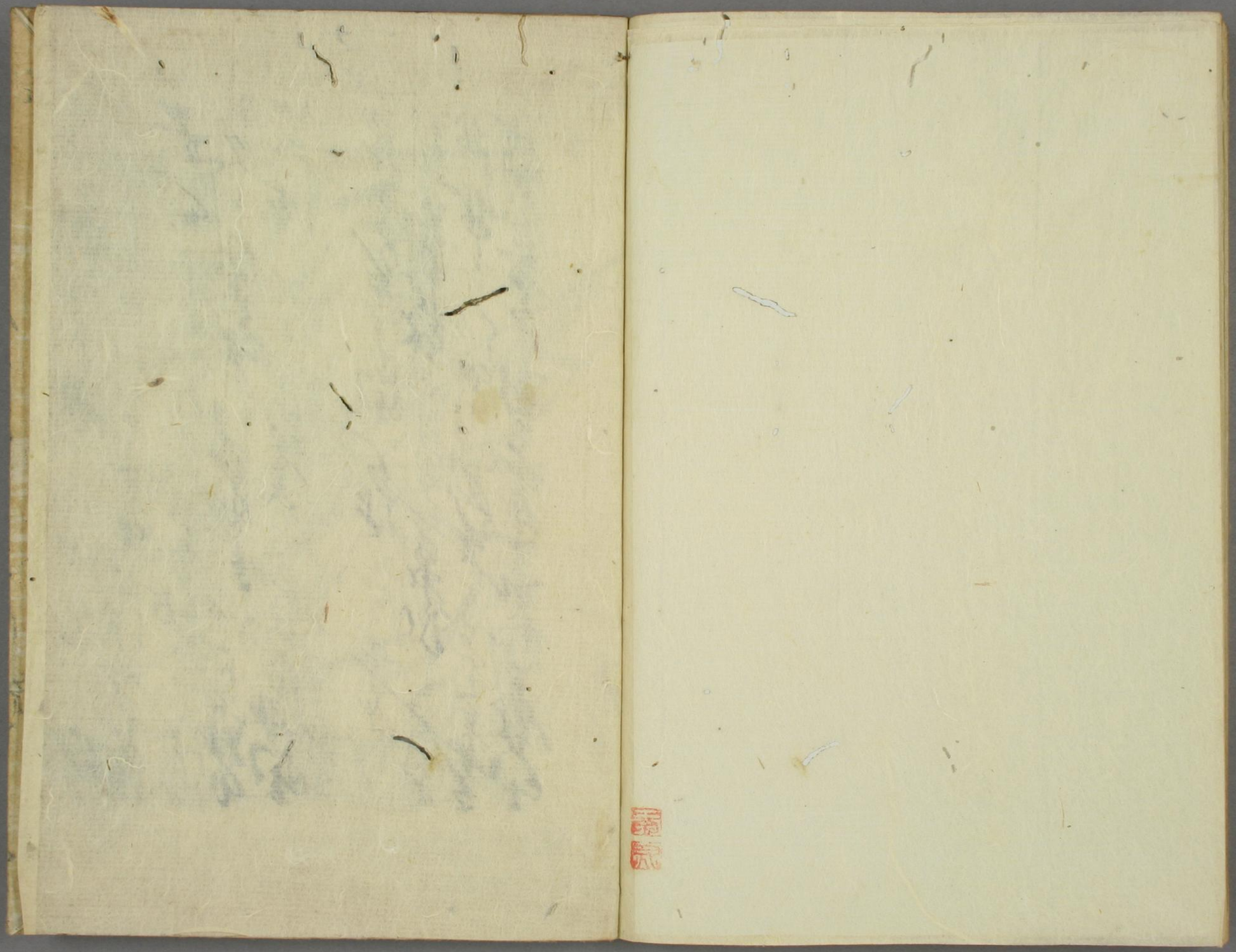
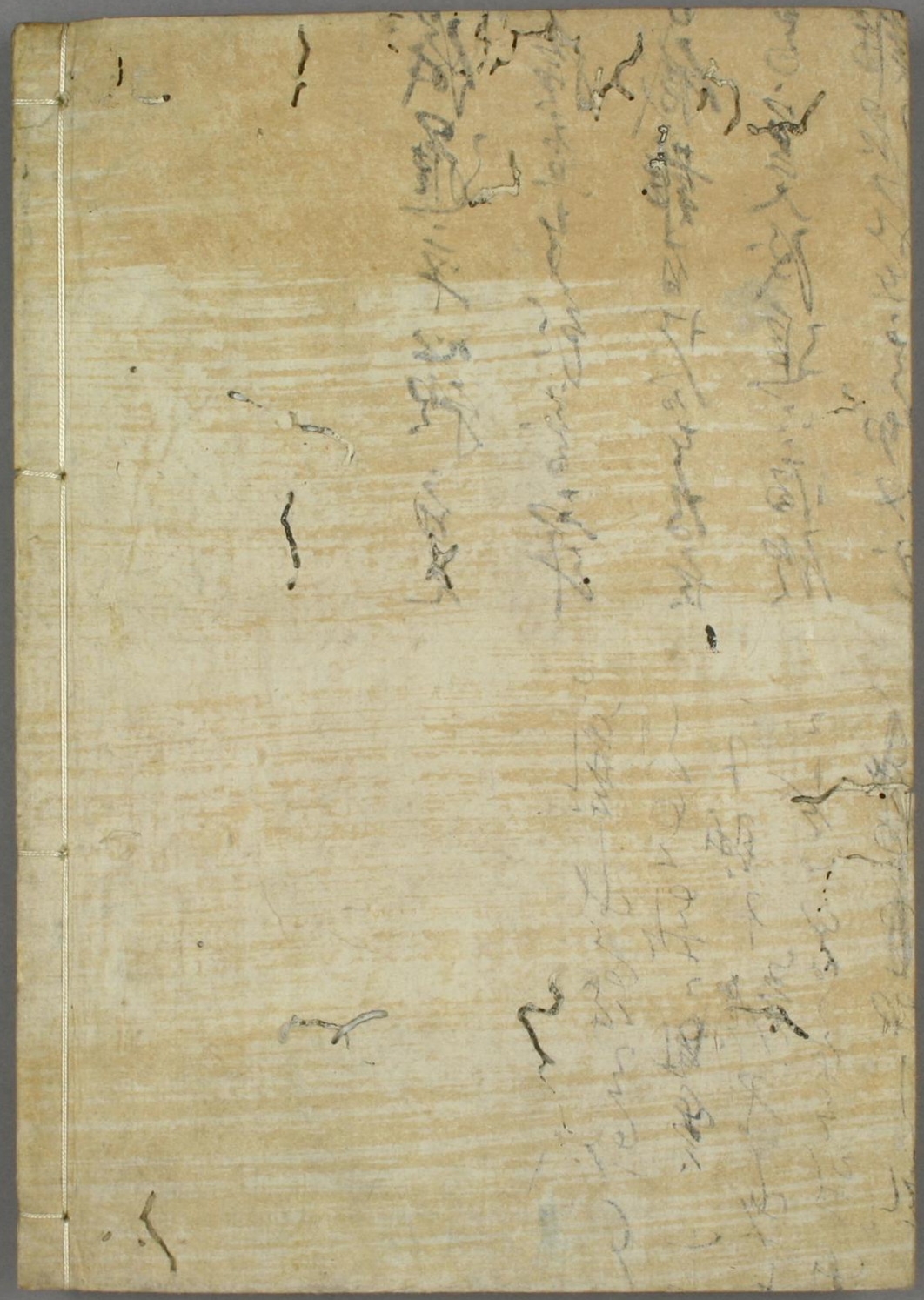
地の道

○十二月

十二月

十二月

[illegible]清鉛

二月

十二月